

後志教育

No.41

後志教育研修センターだより
平成23年 8月18日 発行
TEL0136-22-1337
FAX0136-22-2681

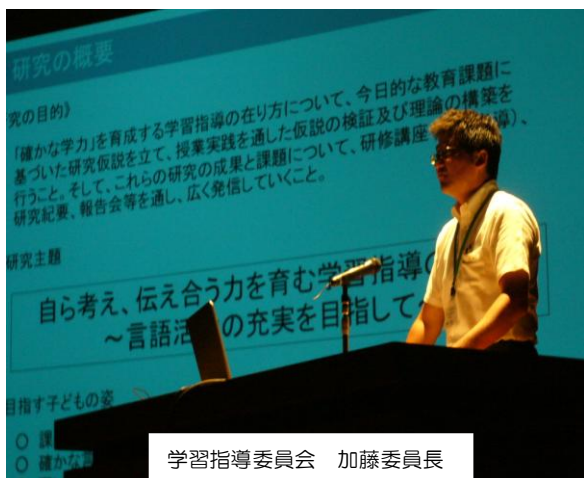
第44回後志管内教職員夏季研修会終了

8月5日（金）第44回後志管内教職員夏季研修会が例年と形を変えて実施しました。午前との部と午後の部に分け、先生方の夏季研修会にふさわしい内容としました。

午前の部 ①調査研究事業報告会

所員が2～3年の見通しの中で、管内の教育課題を設定し、研究したことを授業等を通して検証しその成果を各学校へ発信しております。今までは、研究紀要の形で年度末に配布していましたが教職員夏季研修会の機会を生かして直接先生方に伝えるようにしました。

学習指導研究委員会から加藤数馬所員（倶知安西小）、校内研修研究委員会から柿原 徹所員（寿都小）、社会教育研究委員会から大島恭介所員（共和町教育委員会）が代表で今までの研究内容を発表してくれました。



午前の部 ②実践研究交流会

児童・生徒に基礎・基本の定着を図ることをねらいにした実践校を管内から公募し、発表を通して、その内容を広く管内に浸透させることを目的にして実施しました。

管内から、銀山小学校、北陽小学校、余市東中学校、寿都中学校の応募があり、それぞれの学校の取り組みが発表されました。

銀山小学校（古館 幸恵教諭）では、国語科を中心に漢字や語彙力の不足という実態から授業改善に心掛け、児童の学習への意欲的な参加が伺えるようになり、その結果、宿題や日記について

も積極性が出てきたという内容でした。

北陽小学校（中野大輔教諭）では、算数科を中心に指導過程の習熟の部分重視すること、T・Tの効果的活用、ノート指導の徹底を図ることにより、算数Aの正答率が上回ってきたという内容でした。

余市東中学校（祖父江俊介教諭）では、国語科を中心に家庭学習の定着に向けた全校的な取り組み、シラバスの活用による知識・技能の定着、総合的な学習の時間における表現能力の向上、言語活動を重視した校内研修などを通して基礎基本の定着を図るという内容でした。

寿都中学校（佐々木英俊教諭）では、数学科を中心に、家庭学習の在り方を明確にし、グループ学習での学び合いを通じた授業づくりなどから、全国学力・学習状況調査の結果が向上してきているという内容でした。

午後の部 教育講演会

社会教育の豊富な経験を持つ、阿部 豊氏（教育局長）のお話でした。学校にいるとなかなか社会教育までは目が届かないという実態、社会教育の重要性は概念的には理解できるが、現実的に参加することや積極的に参加促進を働きかけることが少ないということが先生方の実情だと思います。そんな中、会場に集まった先生方を社会教育の方へ視点を向け、具体的でわかりやすく社会教育の重要性を語っていただきました。社会教育と学校教育が車の両輪のように自然体験をさせていくという共通認識を図りながら子ども達の感性を育てていくことの大切さも伝わってきました。



講演会場の様子



社会教育について語りかける阿部局長

参加数は、次の通りでした 合計 207名

・教職員 150名 ・教育委員会 32名 ・教育局 6名・研修センター19名
教職員夏季研修会の成果として、次のようにおさえました。

- ・ 研修センター所員が中心となって研究を深めている調査研究事業内容を直接伝えることができたこと。
- ・ 発表の機会が与えられたことにより、調査研究内容が一層焦点化され次年度取り組み内容が明確になってきたこと。
- ・ 後志町村教育委員会協議会の「後志・学力向上推進プロジェクト」の一環として実施した実践研究交流会では、基礎・基本の定着を図る実践研究として小中4校から発表があり、それぞれの具体的な取り組みが示され、管内の学校へ具体的な方法等が発信できたこと。
- ・ 教育講演会では、学校では普段なかなか目を向けることが少ない社会教育についての講演であった。学校教育と社会教育の違いを法的根拠に基づいて明らかにされたこと、ボランティア活動に代表される社会奉仕体験活動、自然体験活動の大切さを学校教育や社会教育の両輪で育てていくこと。更に、学校教育をサポートする社会教育の機能を10点掲げ、具体的な資料を活用し、今の子ども達の実態を浮き彫りにしながらの講演であったことから、参加した教職員は、より一層社会教育の認識を深めることができたことや学校教育と社会教育との補完関係について理解ができたこと。
- ・ 教育委員会等の参加者も多く、研修センターの事業内容について理解を深めることができたこと。

研修講座の日程の変更

算数・数学科 2日目 9月9日（金）から9月7日（水）に